



夏のピークは過ぎましたがまだまだ残暑は続いています。この暑さの中でも子どもたちは元気いっぱい遊び、幼児クラスは運動会の練習にも励んでいます。夏の疲れが出てくる季節でもありますのでたっぷりの栄養を摂り、しっかり休息して体調を整えていきましょう。

子どもの事故を防ぐヒントは「ヒヤッと」にあり！

子どもがけがをしそうで「ヒヤとした」ときこそ、次の事故を防ぐチャンスです。「無事よかった」とすませるのではなく、なぜヒヤとしたのかを見直しましょう。

① 「ダメ!」「危ない!」は“そこが危険”のサイン

子どもを叱って制止するよりも、物の置き場所を変えるなど子どもが安全に過ごせるよう環境を整えましょう。



② 一度あれば二度、二度あることは三度ある。

危ないと思ったら、必ず理由や経緯を考えましょう。原因がわかれば対策が取れます。対策をしないと大きな事故につながる危険がそのままに。



③ 大人も一緒にやってみる

危ないと思ったら、必ず理由や経緯を考えましょう。原因がわかれば対策が取れます。対策をしないと大きな事故につながる危険がそのままに。



お子様のお洋服、見直してみましよう

夏本番を終えて服屋さんには長袖が見られるようになりました。秋冬に向けて準備を始めるご家庭もいらっしゃるかと思います。保育園での衣服のポイントを紹介しますので、ぜひ参考にしてみてください

・子どもは大人よりも薄着で

園内は暖房や加湿器を使用し温度・湿度の管理を行っていますので、着こむ必要はありません。

・裏起毛はお勧めしません。

裏起毛のお洋服は確かに暖かいですが、汗を吸わない・熱がこもりやすい・静電気が発生する等のデメリットもあります。冬でも活発に遊び、汗をかく子供たちにとって「汗を吸わない」ということは肌表面に水分がのこってしまい結果として寒さを感じたり、風邪を引きやすくなります。

・肌着は綿素材がお勧めです。

機能性インナーが流行っていますが乾燥肌のお子様にはお勧めしません。機能性インナーは「吸湿発熱」という仕組みが利用されており、皮膚から蒸発する水分を利用して暖かさを感じるようにできています。乾燥肌のお子様は機能性インナーを着ることでより乾燥がひどくなってしまふことがあります。

自転車に乗せるときのルール

道路交通法では自転車の二人乗りは禁止されていますが、都道府県の条例によってチャイルドシートをつけた自転車には6歳未満の幼児を2人まで乗せることが許されています。チャイルドシートは必ず自転車販売店で取り付けしてもらいましょう。また、子どもにはヘルメットとシートベルトを正しく着用させてください。



先月、九州地方に大きな地震が起こり、南海トラフ地震臨時情報が出されました。大きな地震がいつ起こるかは誰にもわかりません。ぜひこの機会に救急物品や非常持ち出し袋・備蓄品などの期限や使用の可否を確認してみませんか？